未来の“バイオ技術・農業・環境の
エキスパート”を育んで100年―

巻頭特集

大阪府立園芸高等学校

大阪に2校のみの農業の専門高校『大阪府立園芸高等学校』は今年創立100周年を迎える。
100年の歴史、そして現在の専門的な実習内容や、地域への社会貢献活動の取り組みを取材した。

1915年(大正4)
農林学校
現井口堂に開校

1924年(大正13)
園芸学校と改称、
校舎を移転

1955年(昭和30)
男女共学開始
女生徒が初入学

100年前、秦野にて農林学校として開校

「大阪府立園芸高等学校」は1915年、旧豊能郡秦野村尊鉢（現在の池田市井口堂 水月公園付近）に「豊能郡立農林学校」として開校した。第1回生の卒業生は42名だった。1920年に「豊能郡立農商学校」、その3年後に「大阪府立農商学校」、さらに翌年には「大阪府立園芸学校」に改称し、池田町大字畑へ移築。園芸学校としては「東京府立園芸学校」に次ぐ、日本で2番目の開校だった。

地方、大阪、学内で開墾。実習に明け暮れた戦時中

戦争の混乱の中、1941年に現在の場所へ校舎を移した。実習庭園内では戦闘訓練が行われ、職員をはじめ、生徒が戦地に召集されるようになった。深刻な食料不足の解決のため、食料増産隊として地方に赴いた。1943年には「北海道援農隊」27名が北海道へ派遣され、2カ月間開墾農作業に従事した。翌年には運動場を耕し、温室にサツマイモを作るほか、大阪各地で農菜園の指導も行った。

多様な専門分野の学習を。3学科、6コースを設置

現在600名弱の生徒が在籍する同校には、フラワーファクトリ科、環境緑化科、バイオサイエンス科の3学科が設置されており、各科2コースに分かれ、関心のある分野の専門的な技術・知識の習得を目指している。実習授業では1クラスに対して4、5名の教員を配置し、きめ細やかな技術指導を行う。育てた野菜・花の販売や、企業と連携しての植栽等を通じ、実践的な学びを広げている。

文部科学省がSSHに指定。科学技術系の人材育成を！

2012年、将来の国際的な科学技術系人材を育成するために、先進的な理数系教育を実施する学校として、「スーパーサイエンスハイスクール（＝SSH）」に文部科学省から指定された。農業高校としては、岐阜・広島と共に全国で初めてのSSH校指定だった。科学技術の研究活動や海外研修、理化学関連企業等での実習や、小中学生への科学啓発活動等に取り組んでいる。

園芸高等学校の地域交流や取り組み

日本菊花全国大会に出場

日本全国の菊作り名人が技を競う、大規模な菊花大会。菊鉢物専攻の生徒が毎年のように出場し、数多くの受賞を果たしている

小学校へ出前授業

生徒の発案で始まった出前授業。3〜5名で出向き、蝶の来る庭「バタフライガーデン」の話や、紅葉の仕組みについて講じる

栽培した野菜や花を販売

❶毎月、販売実習として開催される定期市は、育てた野菜や鉢物、切り花を販売。多くの地域住民が訪れる ❷定期市開催を知らせる看板 ❸毎日13時からの校内販売

校長
北之防 勉 先生

環境や栽培など、幅広く専門的な授業で技術と知識を身につけ、農業教育を通じて人間的成長をとげて欲しいです。

バイオサイエンス科

バイオテクノロジーや食品の栄養・分析・加工を「食品科学コース」、「生命科学コース」に分かれ、基礎から知識や技術を学ぶ。

食品科学コース
フードサイエンス基礎

「食品科学コース」はジャム・パン等の加工食品の製造技術や、プラズマ発光・高速液体クロマトグラフィー等の装置を活用した栄養分析等、食品について総合的に学ぶ。2週間に1回、化学実験と食品製造をそれぞれ行っている。この日はフードサイエンス基礎でクッキーの製造を学習！

▶薄力粉にチョコチップ、材料費の単価をもとに、原価を計算。適正販売価格を考える

フラワーファクトリ科

「都市園芸コース」、「草花デザインコース」の2コース制で栽培管理、技術を学習し、食料生産や都市園芸に役立つ人材を育成。

都市園芸コース
野菜・果樹の実習

タマネギ、ダイコン、トマト等の野菜や、ブドウ、ナシ等の果樹の栽培・流通及び利用を学習する「都市園芸コース」。この日は野菜と果樹の二手に分かれての実習。野菜チームは収穫したタマネギを吊り玉保存、果樹チームはナシの袋がけの作業！

タマネギの保存 **野菜**

収穫した大量のタマネギを、束ねてヒモで縛り、風通しの良い所に干して保存

果樹

ナシの袋がけ作業

▶害虫から果実を守る袋がけ作業。かけた生徒が分かるよう、袋に名前や学年、クラス、番号を書く。外れた袋が校内でいくつも見つかると「袋がけが下手だ」と減点されるのだとか…！

園芸高等学校 独自の授業に潜入取材!!

それぞれ特色のある3つの実習授業にお邪魔しました！

環境緑化科

緑化に関する知識と技術の習得、公共緑地の計画・設計・施工や管理などを専門的に学習。「環境コース」と「緑化コース」がある。

緑化コース
施工管理

造園技術者としての知識や技能を学び、樹木の特性を考慮しながら施行・管理を行う技術を身につける「緑化コース」。企業や地方公共団体と連携し、植栽に行くことも。この日は竹垣の施行に取り組むチーム、「造園技能検定」2・3級取得の対策チームに別れて実習！

▲3級は、2時間以内に竹垣製作、縁石のすえつけ、飛石の施工を行う

資格の取得に向けて実技の特訓中!!

▲2級に挑戦する生徒さん。技能五輪全国大会に向けた練習にも取り組んでいる

▲4年前に作られた竹垣が朽ちて来たということで、“四つ目垣”を新たに制作！

竹垣の施工実習

技術と知識、精神力も育み、社会で求められる人材へ

「種の植え付け等、暑くてしんどい時期でも、生き物が相手ですから、やらなければならないことから逃げられませんし、手を抜いてはいけない。そうした農業教育の中で忍耐力や精神力を鍛え、企業で求められる人材を輩出できたら」と北之防 勉校長。資格や技術の習得、専門知識の向上だけでなく、精神面の育成も同校の目指すところだ。本稿の取材日は、日差しの照りつける暑い日だったが、炎天下の実習でも、真剣な表情・楽しそうな様子で励む生徒さんの姿は印象的で、北之防校長の言葉の意味が分かった気がした。

農業者の高齢化、耕作放棄地の増加等の問題を抱え、食の安定供給が不安視される現代だからこそ、農業・環境・バイオ技術の専門家を育成する同校の教育は貴重だ。日本の農業を担う若者の登場を今後も期待する。

取材協力
大阪府立 園芸高等学校
住所：池田市八王寺2-5-1
電話：072-761-8830

文・写真／小木曽優美　デザイン／松本恵弥　写真提供／大阪府立 園芸高等学校